



ラーダーはクリシュナの切り離せない一部…

クリシュナアシュタミー(クリシュナの降誕祭)から15日目に、ラーダーアシュタミーがやってきます。それはラーダーラーニーの誕生を祝う喜ばしい祝祭です。ラーダーラーニーの誕生日はバードラパダ月の聖なる8日目です。シュリ ラーダーラーニーはマトウラー郊外のバルサナで生まれました。バガヴァンは多くの機会に、クリシュナとラーダー、すなわち創造主と被造物との切っても切れない関係について言及なさってきました。クリシュナがパラマートマ(至高神)であることに気づいていたラーダーのクリシュナに対する親近感を語る時、バガヴァンはラーダーの傑出した人生から、ある美しい出来事の詳細をお話しになりました。1978年、ブリンダーヴァンでの夏期講習からの引用です。

ある日、ラーダーは乾いた牛糞の塊(燃料などに使用するもの)を拾うためにブリンダーヴァンに入って行こうと思いました。彼女はその町に入ろうと努力し、クリシュナはラーダーがそのような努力していることに気がつきました。ナンダ(クリシュナの養父)は村長だったので、ナンダの命令で村の入口では番人が見張りをしていました。クリシュナは番人に、ブリンダーヴァンに入ることを許されているのは男性だけであり、女性は入ることを厳しく禁じられていると伝えるように、と指示しました。

ですから、ある日ラーダーが籠を持って、乾いた牛糞の塊を拾うためにブリンダーヴァンに入ろうと試みたとき、その番人は、女性はブリンダーヴァンには入ることはできないと言いました。ラーダーはそれを聞いてすっかり困惑してし

まいました。ラーダーは微笑みながら尋ねました。

「あなたは布林ダーヴァンに滞在できるのですか？ あなたが布林ダーヴァンに入れるなら、私だって入れます」

番人は答えました。

「私は男です。あなたは女です」

ラーダーは答えました。

「あなたは大きな間違いを犯しています。この世界ではクリシュナだけが唯一のプルシャ（男性原理）です。彼以外はみんな女性です。あなたが布林ダーヴァンに入れるなら、私だって入れます」

このようにして、ラーダーは

「どうしてあなたは男性が着るようなローブや衣服を着ているというだけの理由で、自分を男性だと言えるのですか？」と番人に尋ね、強力に彼と議論して問い詰めました。

ラーダーは無理やり布林ダーヴァンに入りました。背後に近づいてきたクリシュナはこれに気づき、ラーダーはクリシュナの命令に背いて無理やり侵入し、しかも女性でもあるので、クリシュナの命令に背いた罰として税金を支払わなければならない、と言いました。ラーダーは答えました。

「おお、主よ！ あなたが私にくださったハートが私の唯一の財産です。税金として、私はハートをお返しいたします。他に税金を支払うようなお金も所持品もありません。私は喜んで、唯一の持ち物である私のハートをあなたに明け渡します」

クリシュナは答えました。

「黄金の（素晴らしい）ラーダーよ、布林ダーヴァンが出現したのは、パラマートマ（至高神）としての私と、プラクリティ（自然）としてのそなたの間にあるような神聖な関係を不滅にするためである。後世の人々は、ラーダーのハートには常にクリシュナが祀られていたことを知るだろう。私のこの言質は、ラーダーとクリシュナの間に存在した関係の意味を必ず伝えるだろう」

プラクリティのあるところにはパラマートマが存在します。パラマートマが存在するところには被造物があります。パラマートマとプラクリティは対象物と姿形のようなものです。私たちがどこへ行こうとも、この世で人が見ることのできるものは、ラーダーとクリシュナの二つの様相の合体と一致なのです。

バガヴァンは神聖な関係について解説しながら、更に講話を続けられました。

一般的に人々が理解しているように、『バーガヴァタ』のラーダーを普通の女性と見なし、クリシュナを普通の人間、男性と見なし、二人の関係をただの男女関係と見なすことは大きな間違いであり、聖典『バーガヴァタ』の著者が伝えようと意図したこととはまったく正反対です。この二人の関係は、神と被造物との間に存在する神聖な関係です。それは、白い色が牛乳そのものから切り離すことができないのと同じくらい切り離せないものなのです。

牛乳から白色を取り除くことは不可能です。もし牛乳をカード（ヨーグルト）に変えても、そのカードも白色です。カードを攪拌してバターミルクを作っても、バターミルクも白色です。バターミルクからバターを取り出しても白色です。このように、何をしようとも、牛乳そのものから白色を切り離すことはできないのです。ラーダーは、白色が牛乳に不可欠な部分であるのと同じく、クリシュナに不可欠な部分なのです。ラーダーとクリシュナの間のような関係は、この世では比類なきものであり、他のどんな場合にも起こり得ません。

今日、私たちがこれを理解し、少なくともある程度、ラーダーとクリシュナの間にある関係から引き出すことのできる教訓を実践したとき、初めて私たちは、世界を通してそれらの神聖な姿で、クリシュナの様相を促進させるでしょう。反対に、ラーダーを一個人、クリシュナを別の個人と見なし、彼らの相違に基づいたこの考えを促進すべきではありません。聖書の中で、このラーダーとクリシュナの一体性は「神の国」として言及されています。このプラクリティとパラマートマの一なる相は、いくつかの宗教で様々な言葉を使って言及されています。しかし、一般大衆にラーダーの意味を理解させるため、私たちの祖先は一つの名と姿を作り出したのです。けれども、絶え間なく常にクリシュナを想う者は誰であれラーダーです。これは相であって名前ではありません。

このラーダーの聖なる神の相に対し、私たちは幾つかの誤り伝えられた意味を抱いてきました。ラーダーはクリシュナ、その対象物の信心深い姿に他なりません。私たちをクリシュナに導いていくような行動に着手しなければなりません。被造物はプラクリティです。神聖な愛を培うことができるには行動が必要です。クリシュナへの愛の報いとして、私たちはクリシュナに到達することでしょう。今日、私たちはラーダーのクリシュナに対する愛の意味と重要性を理解しました。私たちは、そのような神聖な愛の背景に反する彼女のすべての行動を解明する準備をしておくべきです。

サマスタローカー スキノー バヴァントウー

